

## 平成 25 年度第 2 回社会福祉審議会議事録

○ 日時：平成 25 年 7 月 26 日（金）午後 6 時から午後 7 時 40 分

○ 場所：大和市保健福祉センター 5 階 501 会議室

○ 参加：

〔出席委員〕 10 名

小野委員長、山岸副委員長、大谷委員、町田委員、高橋委員、金子委員、  
北林委員、和田委員、前川委員、阿部委員

（欠席委員） 竹村委員、松井委員、桐原委員、鈴木委員、柴田委員

### 【次第】

#### 1. 開 会

#### 2. 委員の変更について

#### 3. 議 題

（1） 障がい者福祉計画の進捗状況について

（2） 第 4 期地域福祉計画 策定状況について

① アンケートの集計結果（速報値）について

② 地域福祉の現状と課題について

③ 第 3 期から第 4 期への体系整理（案）について

#### 4. その他

（1） 今後のスケジュールについて

#### 5. 閉 会

以下、要旨記録

### 1. 開会

事務局 平成 25 年度第 2 回社会福祉審議会を開催させていただきます。

### 2. 委員の変更について

山本委員に替わり柴田委員の紹介（本日は欠席）

### 3. 議題

小野委員長あいさつ

自殺対策フォーラムのチラシが配られている。自殺のことで関係者に考えてもらいたいのは、平成 24 年の総自殺者数は、28,258 人で、平成 10 年から 3 万人を超えていたのが、ようやく切った状況。平成 20 年の自殺者は、60 歳代が 17.9%、

平成 23 年は 50 歳代が一番高かった。高齢者人口が高いからかもしれないが、自殺者に占める 60 歳以上の人が 39.7%と 4 割近く占めていた。また、自殺の男女比は 7 : 3 で男性が圧倒的に多いという実態がある。高齢期の人々の自殺対策は、生き甲斐対策を考え、引きこもりがちな男性高齢者を如何に地域活動に引き出すかが大きな課題だと言える。

### (1) 障害者福祉計画の進捗状況について (資料 1) …説明省略

委員 3-7「障がい者施設の整備」で、施策の方向性は重心の方の事が書かれているが、実施中の事業には、重度の自閉症と発達障害の方が書かれている。重度の行動障害の方への施設も必要だが、計画としては、施策の方向性に合わせて出すべき。

事務局 施策の方向性に、「生活介護施設及び、多機能型サービス事業の移設に際しての助成」とあるのは、ワークステーション「菜の花」のことで、重心の方が通所している施設でその開設時の建設費用の一部を現在も市が助成をしているが「実施・実施中の事業等」には載せていない。施策の方向性としては、重心に加え障がい者施設の整備で、新たに発達障害の支援困難な方を取り組むことになり、そちらを載せている。

委員長 1-1「成年後見の市長申立」の件数はどのくらいあるのか。

事務局 平成 24 年度については、障がい者部門での市長申立は 1 件もなかった。高齢福祉部門では、11 件あった。

委員長 これに関係して、社会福祉協議会が法人後見をできるようになっていますか。

委員 今年度、社協で成年後見制度を検討し始め、弁護士さんを入れて相談業務の実施を始めた。見切り発車だが、行政の方でも応援していただきたい。

事務局 今、市でも社会福祉協議会に法人後見のお願いをする方向性で、事務レベルの話をしている。現在、市民後見養成講座があるが、横浜地裁で、受講された方を市民後見人補佐として認定した事例は、弁護士と税理士のペアの一事例のみで、やや足踏み状態。市民後見の講座の受講を終えた方が活躍出来る場がないというのが神奈川県下、特に横浜地裁管内の状況である。

我々としては、法人後見制度の育成を含めて視野に入れながら検討したい。

委員長 今後、市民後見人には、社協が後見監督人になることが必要になるので、是非、社協で法人後見人ができる体制を取っていただきたい。

### (2) 第 4 期地域福祉計画 策定状況について

#### ① アンケートの集計結果 (速報値) について (資料 2) (資料 3) …説明省略

委員 (市民向け) P20「地域で活動している人の認知度」で、自治会は身近な存在であるが、民生委員・児童委員の認知度が高まっている要因は、(自治会向) P9「現在

の活動と今後必要なものの比較」で、自治会の協力度がなくてもできる災害の手助けや話し相手などの意識が高いことが、民生委員の知名度を高めているのかという感じがする。かつては民生委員の認知度は低く、世話になりたくないとか関係ないとか知らないふりをする方が多いというデータがあったように思う。

事務局 今回は単純集計のみのデータなので、今後、地域別、年代別のクロスや過去のアンケート結果との推移の分析をかけていきたい。

委員長 クロスや色々な統計データが出てくるとわかってくるだろう。

事務局 クロス集計について、要望などご意見いただければ次回までに準備をしたい。

委員 大和市の7つの包括支援センターでは、施設毎の差はあるが、年間7~8千の基本業務と言われる相談を受けており周知度もあがっている。7つの包括のエリア的な違いのデータは出せるか。

事務局 居住地別でクロスをかけるので、包括別ではないがある程度把握はできる。

委員 今後、包括が2ヵ所増えることも含め、包括として災害時への解決の方向を進めるにあたって大事な所だと思った。

委員長 回答者の年齢の4割が20~40代なので、認知度はこの位になるのだろう。

委員 (自治会向) P9 設問の意図は、「現在活動していないが今後自治会として必要となる活動」なのか、「現在やっていて引き続き必要な活動」という意味なのかどちらにもとれる。アンケートの意図としては、どちらを聞きたいのか。

事務局 前者になる。今後、安否確認や見守りは、地域でも課題となっていて、全国的にも課題となっているだろうということで、大和市の実状を確認したかった。

委員 そうすると、町内の清掃活動や防犯パトロールや地域の行事の手伝いはどこの自治会でもやっている中、「防犯パトロールを今後やっていきたい」は40.3%あるが、「今はやっているが、今後もやっていきたい」と思っつけてられた自治会長さんもいると思う。もし、今後、新たに必要な活動を聞きたいのであれば、その部分のエラーは除外した方が精度は高くなると思う。

委員長 集計の時に意見を参考にしてもらいたい。

委員 (市民向) P10 「現在の健康状態」で、「健康である」と「どちらかという健康である」を合わせると7割程度あり、大和は健康都市と掲げているだけのことはあるのかとも思われるが、回答者が比較的若い人だったこともあるかもしれない。「日常生活には問題がない」も入れると9割にもなり、後の「困った時に助けてもらいたいこと」等、健康であるから必要ないとなってしまうのではないか。

事務局 逆にアンケートに回答できるぐらい健康な人という考え方もある。3000名の中で回答いただけなかった2157名の方の中に健康でないので答えられなかった人がいるかもしれないので、数値の取り扱いに注意したい。

委員長 ちょっと高血圧で薬は飲んでいるが通常のことを出来る人は、健康であると答え

ているだろう。

委員 34%の回収率というのは通常のアンケートの中では一般的な数字になるのか。

事務局 前は 38.7%。今回もう少し欲しかったがやむを得ないと思われる。

前回 38%で今回 34%であったが、幅広い年代でやっているのである程度回答率が下がるのは致し方ないと考えている。有効回答数に対する有効性は、精度としてかなり信憑性があると言える。

委員長 一般市民に郵送で回収だとそんなに高くはならない。これが、訪問して回収なら高くなるが、それだけ人件費はかけられない。

委員 質問の回答は、いくつか答えが見えていて選ぶ形なので、アンケートに対して誘導的だと感じる。その他の回答をあった部分だけでも紹介してもらいたい。

事務局 現在集計段階で、手元にデータがないので、後ほどお示ししたい。

委員 その他にあがっているものがヒントかと思う。答えが出ていない部分が欠けている部分でこれから進めていく部分なのかと思うので、是非分析してもらいたい。

委員長 最終的な所ではその他の項目も全部あげる。

事務局 ご指摘の通りだと思うので、今後、精査して検討していきたい。

委員 (市民向) P13「これからも大和市に住み続けたいか」で、「住み続けたくない」と答えた方の不満等を知りたい。住み続けたくない人はどのような理由なのか、具体的に答えてもらう欄を作った方が答える人が書きやすかったと思う。

委員 「住み続けたくない」と「住み続けたい」と答えた人の差はクロスで見られる。そこで、近所づきあいの考え方の違い等がわかる。

委員長 年代による違いやアパートに住んでいる人はどうか等、どのような人が住み続けたくないといっていないのか分析ができる。

委員 若い人が住み続けたいと思える地域にしたいし、世代間交流の事もあがっていたが、全部の世代が住みやすい環境を作っていかななくてはいけない、住みにくいと言っている人の年代がわかると行政の方の対策も具体的に見えてくると思う。

## ② 地域福祉の現状と課題について (資料4) …説明省略

事務局 今回配布させていただいた資料に付随して何かご要望があればご次回までに用意したいと思うので事務局あてにご連絡いただきたい。

委員長 平成22年～24年までの大和市の状況は、インターネットで「自殺対策支援センターライフリンク」で神奈川県をクリックすると見ることができる。

## ③ 第3期から第4期への体系整理 (案) について (資料5) …説明省略

事務局 今回、体系図案という柱だけで、言葉だけの説明で恐縮であるが、現在、庁内策定検討委員会で個別目標に合わせた現状と課題と取組方針を書いている。

また、市民の皆さんに一番身近で活動されている民生委員さんを対象にしたアンケートをかけており、新たな課題が出てくると思われる。

今回のアンケートで埋もれている人の課題、光を浴びせなくてはいけない課題についても体系図（案）の中で拾っていこうと考えている。

委員長 要援護者の見守りの緊急対応も新たに地域計画に盛り込みなさいと言われていたので新たな要素を入れていかななくてはいけない。

生活困窮対策に関してはどこの計画にも盛り込まれていないので、この地域福祉計画に盛り込まなくてはいけないと思われる。事務局でも考えているだろう。

委員 P3の（充実）（新規）で、7番の在宅福祉サービス、12番の拠点作りなど、最も必要だと感じるが無印になっているので、充実にしていった方がよいと思う。

事務局 充実という言葉で書いていないが、各課とも、居場所、拠点作りを始めるところもあり、かなり進んだ市の取組になっていくかと思われる。

委員長 無印は、継続推進と考えればよい。

今回の体系図（案）に、具体的な中身が入ってくるので、また、その時にご意見をいただけたらと思う。

#### 4. その他

##### 今後のスケジュールについて

8月27日（火）午後6時、大和市保健福祉センター 501会議室

#### 5. 閉会

副委員長あいさつ

地域福祉計画、平成26年度から第4期の計画で4年の計画である。

前期の計画時には東日本大震災があり、日本の地域のかかわりが大きく変わってきたように思う。その中で今後、大和で地域福祉として必要なことをアンケート等で考えていければよいと思う。

特にアンケートの「近所の人との付き合い方」で、実際、近所の人と挨拶を交わす程度だが、本当は、立ち話もしたいという、そんな小さな人の心が地域福祉を支えているのではないかと改めて感じている。

今後、地域福祉の基幹になる計画ですので、次回は1か月後、またご意見をいただきたい。本日はありがとうございました。

以 上